

2009年度

科目名	コミュニケーション演習B				
担当教員	小川 雅史、山路 昭、名徳 倫明				
配当	薬科4		コード	23950	
開期	前期	講時	火曜日3限	単位数	1
授業テーマ	【必修】医療現場でのコミュニケーションの必要性、重要性を学ぶ				
目的と概要	近年、チーム医療が重視され、薬剤師は患者だけでなく医師や看護師、栄養士などの医療従事者との円滑なコミュニケーションが求められている。実務実習前に、患者及び他の医療従事者とのコミュニケーションを行うのに必要な基本的な知識、技能を身につけながら、医療機関で遭遇する重要性の高い具体的な課題について、演習形式(討論・発表を含む)で習得する。				
成績評価法	小テスト、出席回数および発表技能・態度、レポートを総合的に評価する。				
テキスト	実践ファーマシューチカルコミュニケーション/井手口直子著・監/日経BP社				
参考書	日本薬学会編スタンダード薬学シリーズ1「ヒューマニズム・薬学入門」/有田悦子他著/東京化学同人 実践薬剤師・薬学生のための医療コミュニケーション学/緒方宏泰監/じほう				
履修に当たっての注意・助言	コミュニケーションはお互いの自己主張の場ではありません。話し相手から信頼されるように、普段からTPOに応じた話し方・聴き方が出来るように心がけて下さい。コミュニケーションに油断は禁物です。				
講義計画					
補助教員: 廣谷 芳彦、小西 廣己、上島 秀樹、初田 泰敏、川西 園代、池田 賢二、伊賀 幾美					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	患者の気持ちを学ぶ	1. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。 2. 患者の心理状態を把握し、配慮する。 3. 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する 4. 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。	A(3)	知識
2	演習	患者本位のファーマシューティカルケアの概念を学ぶ	1. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。	D I (1)	技能・態度
3	発表・討議	患者本位のファーマシューティカルケアの概念について発表・討論する	1. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。	D I (1)	態度
4	演習	薬剤師の責任と他の医療従事者との連携を学ぶ	1. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。	D I (1)	技能・態度
5	発表・討議	薬剤師の責任と他の医療従事者との連携について討論・発表する	1. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。	D I (1)	態度
6	演習	処方せんの鑑査の意義とその必要性を学ぶ	1. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。	D I (2)	技能・態度
7	演習	処方せんの鑑査の意義とその必要性を学ぶ	1. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。	D I (2)	技能・態度
8	発表・討議	処方せんの鑑査の意義とその必要性について討論・発表する	1. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。	D I (2)	態度

9	演習	処方せんの問題点を解決する方法を学ぶ	1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。	D I (3)	技能・態度
10	演習	処方せんの問題点を解決する方法について討論する	1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。	D I (3)	技能・態度
11	発表・討議	処方せんの問題点を解決する方法について発表する	1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。	D I (3)	態度
12	演習	服薬指導時の実践的方法と基本的姿勢を学ぶ	1. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。	D I (6)	知識・技能
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能
13	発表・討議	服薬指導時の実践的方法と基本的姿勢をSP参加で実践する	1. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。	D I (6)	技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	技能・態度
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・態度
14	演習	患者接遇時での注意点を学ぶ	1. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	D I (6)	知識・技能
15	講義	講演・総括・総合討論	1. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A(3)	態度
			2. 患者の心理状態を把握し、配慮する。	A(3)	態度
			3. 討論、自己評価、演習のまとめを行う。	A(3)	態度
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(3)	講義	講義室	3	プリント、スライド	90分×2
D I (1,2,3,6)	演習	小教室・模擬薬局	3(7)	プリント	90分×8
D I (1,2,3,6)	発表・討論	小教室・模擬薬局	3(7)	プリント	90分×5